

JGS 関東 新設杭に干渉する既存杭の撤去に関する研究委員会
第 11 回 議事録

- 日時：2020 年 8 月 26 日（水） 14:00～17:00
- 場所：地盤工学会 地下階大会議室（Web 会議含む）
- 出席者：桑原（パイルフォーラム）、青木（竹中）、加倉井（パイルフォーラム）、阿部（東京ソイル）、柏（国総研）、片山（東邦地下工機）、小坂井（MFR）、西（安藤ハザマ）、三反畑（安藤ハザマ）、古垣内（東急）、張（東急）、嶋田（大林）、森（熊谷）、福田（戸田）、長澤（清水）、栗本（清水）、原（西松）、伊藤（東亜）、小林（大成）、高岡（三井住友）、梶野（長谷工）、土屋（竹中）、宮本（東洋テクノ）、木谷（三谷セキサン）、田中（大洋基礎）、小川（旭化成）、細田（ジャパンパイル）、山下（不動テトラ）、菅原（丸建興業）、野坂（八州建機）、媚山（新潟商事）、山本（代理根岸）（地盤試験所）、飯島（土木研究所）

記録者：山下

注：____欠席

- 11-0-1_JGS 関東既存杭撤去第 11 回議事次第 200817
- 11-1_第 10 回既存杭の撤去に関する研究委員会_議事録（案：戸田 福田）200617
- 11-2_既存杭撤去埋戻しガイドライン目次案_200601
- 11-3-1 WG1_ガイドライン案_20200820
- 11-4-1_WG2 報告(2020 0826(追記版)
- 11-4-2_ WG2 第 10 回議事録案_20200731
- 11-5-0_WG 3 ガイドライン目次案
- 11-5-1_WG 3 ガイドライン既製杭案 0710
- 11-5-2_WG 3 ガイドライン場所打ち杭案 20200805
- 11-6-1_2020AIJ 大会_20320（井上波彦）_200817
- 11-6-2_2020AIJ 大会_20321_（青木雅路）既存杭撤去・埋戻しに伴う周辺地盤への影響（緩み）に関する研究（その 1）_200817
- 11-6-3_2020AIJ 大会_20322_（水澤良介基礎地盤）既存杭撤去・埋戻しに伴う周辺地盤への影響（緩み）に関する研究（その 2）_200817
- 11-6-4_2020AIJ 大会_20323（沼本大樹）_200817
- 11-6-5_2020AIJ 大会_20324（三嶋信也フジタ）_200817
- 11-6-6_2020AIJ 大会_20325（北島明フジタ）_200817
- 11-6-7_2020AIJ 大会_20326（田口智也戸田）_200817

議事題

1. 前回議事録の確認（資料 11-1）

- ・ 前回議事録は確認の上、承認された。
- ・ 6 章の残すべき情報の記録（フォーマット）は全体で調整すること。

2. ガイドライン案 WG 進捗状況報告

各 WG より、説明があった。

1) WG1 に関して（資料 11-3）

- ・ WG1 の担当 2 章、6 章、付録であり、執筆がほぼ完了（90%程度）している。

- ・資料 11-3-1 の P26 表 2.4.7 埋戻しリスク評価表について
 - ・各項目の評価値の指標の意味合いが異なるので、合計はなくした方がよい。
 - ・各項目（材料コスト、施工手間、沈下、施工数量）の語句が分かりづらい。
 - ・上記の沈下だけ品質に関する結果についてであり、強度、周辺影響もあるとよい。
 - （案）工期、コスト、品質、周辺影響
 - ・埋戻材、方法による特徴の比較をし、選定のための参考資料としての位置づけで整理してはどうか。
 - ・埋戻材、方法だけでなく、引抜方法（縁切 or 破碎撤去）による影響もあるのでは。
 - ・以上を踏まえて、整理する。
- ・資料 11-3-1 の P25 表 2.4.5 の「セメントミルク」に「ベントナイト」を含んでいても問題ないか。杭の「根固め液」と認識が異なる。

2) WG2 に関して（資料 11-4）

- ・3 つの SWG を進捗状況の説明があった。
- ・subWG2 について
 - ・調査項目（資料 11-4-1）の標準貫入試験とコア採取では、埋戻土の強度によって、調査対象が異なるので、説明が必要である。
 - ・調査項目（資料 11-4-1）のコストで、未固結の採取箇所数、コア採取箇所数などの条件によるが、「未固結採取」＜「コア採取」が、一般的な認識である。（表は逆）
 - ・「設計的」「施工的」な観点および何を調査したいかで、調査箇所・頻度は異なると考えられる。本委員会では後者の「施工的」な観点が重要と考えられる。
 - ・「施工的」の観点からは、施工時の鉛直精度確保が難しくなるような影響があると困る。原地盤と比べて硬すぎるのも困るが、柔らか過ぎるのはもっと困る。
 - ・調査箇所・頻度は、最低でも「現場あたり 1 本」でも、進展である。

3) WG3 に関して（資料 10-5）

- ・4 章の内容について説明があった。
- ・4.2 既製杭と 4.3 場所打ち杭の構成およびフォーマットを次回までに揃える。アンケート結果についても同様に。
- ・4.3 場所打ち杭でも 4.2 と同様に、どんな工法があって、どんな特徴があるかを記載する。
- ・4.3 場所打ち杭の図 4.3.12「新設杭を事前に偏心させた事例」では、設計時に偏心させた場合と施工時に偏心させた場合がある。また、偏心させる場合は下記の 2 種類がある。
 - ・既存杭に対して、干渉しないよう偏心させる。（既存杭は残置）
 - ・既存杭と同じ杭芯で新設杭を打設する。（既存杭は撤去）

4) その他

- ・AIJ20326（資料 11-6-7）：流動化処理土で埋戻した際、トレミー管の径が小さく上手く材料を送れなかったが、圧送することにより上手くいった事例である。ガイドラインに示せばよいのでは。
- ・AIJ20321（資料 11-6-2）：流動化処理土の配合について教えて欲しい。→後日

3. 今後の予定

- ・次回：2020 年 10 月 22 日（木）14:00～17:00 場所 地盤工学会
- ・次々回：2020 年 12 月 16 日（水）14:00～17:00 場所 地盤工学会

以上